

## グローバル教育センター

---

### グローバル教育センター ▶

- 📄 グローバル教育センターについて
- 📄 講義科目（全学共通科目）
- 📄 インターンシップ科目
- 📄 海外短期研修
- 📄 実践型プログラム
- 📄 その他プログラム
- 📄 SUMMER SESSION IN EAST ASIAN STUDIES

## グローバル教育センターについて

グローバル教育センターでは、すべての学生がグローバル・シチズン（地球市民）としてグローバル社会で活躍できるような学びの機会を全学横断的に提供しています。グローバル教育センターは、多くの多様な全学共通科目を提供しつつ、交換留学、実践型プログラム、海外短期研修、インターンシップ科目など座学を超えた学びの機会を数多く提供しています。グローバル教育センターに所属する国際経験豊富な教員が担当する科目も、国境や文化の壁を超えて世界全体の平和、人権、ダイバーシティ、環境保護などに注目し、複数の学部学科の学生や留学生と肩を並べて学ぶことができ、日本にいながら海外大学生とオンラインで繋がり共に学ぶことができる、などの特徴があります。

### ①講義科目（全学共通科目）

平和構築、和平調停、国際関係、国際協力、政治、教育、メディア、環境、人類学など、幅広い分野で講義科目を開講しています。また、そのうちの多くが英語による科目です。必要な英語力は科目によって異なります。高度な教養を身に付けるだけでなく、自分の専門分野の学習をさらに深めるため、あるいは学際的な学びへと発展させるために、積極的な履修を期待しています。

### ②インターンシップ科目（全学共通科目）

本学と協定を結んだ企業、国際機関、団体などでインターンシップ（就業体験）をすることで全学共通科目の単位が付与されます。インターンシップは、夏期・春期休業中に2～6週間実施する短期型と、学期中に2～5ヵ月間で実施する中期型・長期型があります。【インターンシップ科目の関連ページを参照】

### ③海外短期語学講座

夏期・春期休業中の3～5週間、本学の交換留学協定校等の付属語学学校が主催する語学プログラムに参加します。所定の成果を修めた者には、当該言語科目の単位が付与されます。言語教育研究センター開講科目ですが、グローバル教育センターがプログラムを運営しています。【海外短期語学講座の関連ページを参照】※

### ④海外短期研修

夏期・春期休業中の2～6週間、本学の交換留学協定校等で実施される短期プログラムに参加し、外国語で専門科目を学びます。認定・単位数はプログラムにより異なります。本研修参加のためには一定の語学能力が求められており、語学能力を活用しながら集中的に専門科目を学びたい学生に向いています。【海外短期語学講座の関連ページを参照】※

### ⑤実践型プログラム

主に夏期・春期休業中に、海外または国内においてフィールドワーク等を通じて実践的に学ぶプログラムです。各プログラムは、本学の開講科目として取り扱われ、事前指導に全て参加し、現地研修において所定の成果を修めた者には、全学共通科目（選択科目）として単位が付与されます。【実践型プログラムの関連ページを参照】※

### ⑥交換留学

本学の交換留学協定校へ、協定に基づき大学の代表として派遣される留学プログラムです。留学期間は1学期～1年で、留学開始約1年前に学内選考があります。

### ⑦Sophia AIMS（SAIMS）プログラム

本学の提携大学であるASEAN諸国4カ国の7大学との交換留学プログラムで、各大学が提供する様々な分野を1学期間、英語で学ぶことができます。また、ASEANからの留学生と共に、SAIMSプログラム科目の履修が可能です。（2025年度は科目休講。SAIMSプログラムでの留学は可能。）

## ③Latin America Program (LAP)

本学の提携大学である中南米6カ国13大学への交換留学プログラムです。留学による相手国の言語や文化の修得のみならず、本学での中南米からの留学生とスペイン語・ポルトガル語で開講される授業や課外の交流を通して、様々な角度から理解を深める多層的な学生交流プログラムです。【Latin America Program (LAP)科目の関連ページを参照】※

## ④Summer Session in East Asian Studies

7月に海外の大学生等を対象に日本およびアジアの社会、歴史、経済、芸術、言語等に関わる講義を英語で提供するサマーセッションを開講しています。留学生向けのプログラムですが、本学の学生も履修可能です。【Summer Session in East Asian Studiesの関連ページを参照】

 ③～④のプログラム詳細については、グローバル教育センター発行の「留学ハンドブック」も参照してください。

## 講義科目（全学共通科目）

グローバル教育センターに所属する国際経験豊富な教員が担当する全学共通科目の一例を紹介します。記載内容は変更となる可能性があります。下記の科目を履修する場合は、履修要覧の全学共通科目のページおよびシラバスを参照してください。

### 講義科目（全学共通科目）

グローバル教育センターに所属する国際経験豊富な教員が担当する全学共通科目の一例を紹介します。記載内容は変更となる可能性があります。下記の科目を履修する場合は、履修要覧の全学共通科目のページおよびシラバスを参照してください。

#### 1. 科目例（2025年度）

教員名	専門分野	担当科目	開講期
東 大作	国際関係論、平和構築、和平調停	自主研究（グローバル課題研究）：人間の安全保障と平和構築 ※「人間の安全保障と平和構築」連続セミナーに参加しつつ学びます。	春学期
		INTERNATIONAL POLITICS AND PEACEBUILDING 1	春学期
		INTRODUCTION TO CONFLICTS AND HUMAN SECURITY	春学期
		DEBATE ON PEACEBUILDING	春学期
		平和構築とメディア	春学期
		平和構築入門	4Q
		和平調停～世界各地で勃発する戦争を止めるために	4Q
杉浦 未希子	水資源管理、エコロジー、水と農業と社会	SUSTAINABLE DEVELOPMENT	休講
		CONSERVATION	休講
		ENVIRONMENTAL SCIENCE	休講
		SUSTAINABLE DEVELOPMENT	休講
		CONSERVATION	休講
		ENVIRONMENTAL SCIENCE	休講
水谷 裕佳	文化人類学、北米地域研究、境界研究、先住民研究	地理的境界と人々の暮らし	春学期
		文化復興と民族：北米先住民の現在	春学期
		CULTURAL REVITALIZATION AND COMMUNITY BUILDING	春学期
		地理的境界と人々の暮らし	秋学期
		文化復興と民族：北米先住民の現在	秋学期
		CULTURAL REVITALIZATION AND COMMUNITY BUILDING	秋学期
梅宮 直樹	国際教育協力論、国際教育開発論、国際高等教育論、比較国際教育学	国際教育開発・協力論（理論と課題）	春学期
		国際高等教育論①（歴史と変遷）	春学期
		国際高等教育論②（国際化と国際協力）	秋学期
		INTRODUCTION TO	秋学期

		INTERNATIONAL COOPERATION -OVERVIEW AND MANAGEMENT METHOD	
		国際教育開発・協力論（事例 研究）	秋学期
李 ウォンギョン	国際関係論、デジタル外交、 東アジア地域研究	グローバルメディアと日本	春学期
		現代韓国社会の理解	春学期
		留学準備講座	1Q・3Q
		東アジアの諸問題とイエズ ス会教育（上智・西江共同開 講科目）	秋学期
		現代アジア社会の理解	秋学期
		GLOBAL MEDIA AND JAPAN	秋学期
大平 和希子	アフリカ地域研究、アフリカ 政治、国際関係学	グローバル社会の中のアフ リカ	春学期
		演習（アフリカ・アジア関係）	春学期
		IMAGINED AFRICA AND BEYOND	春学期
		グローバル社会の中のアフ リカ	休講
		国際協力概論-日本による開 発援助の潮流と仕組み-	秋学期
		東アフリカの歴史と政治	秋学期
		IMAGINED AFRICA AND BEYOND	秋学期

## インターンシップ科目

---

本学と協定を結んだ実習先（グローバル企業、国際機関等の日本代表部、国際協力団体、報道機関など）でインターンシップ（就業体験）をし、事前・事後の講義受講や課題提出を行うことで全学共通科目（選択科目）の単位が付与されます。就業・実務経験を通じて、大学で学んだ専門知識や技能をグローバル社会の中でどのように活かすのか、あるいは自分が残りの大学生活で何を学ぶべきか、といった気づきを得るため、主体的に学ぶ姿勢が求められる科目です。

インターンシップ科目の履修にあたっては、別途説明会・選抜を行います。説明会・募集情報は、My Sophiaで発表します。最新の情報はグローバル教育センター窓口（2号館1階）で確認してください。下記の実習先例は過去の募集実績です。各学期の募集実習先はMy Sophiaで発表します。

---

### 1. 科目の種類と実習先例

1. 科目の種類と実習先例

科目名(単位数)	学期(実習期間)	過去の募集実習先(年度により募集実習先は異なる)※は海外での実習	
経済同友会連携 インターンシップ (2単位)	春学期 (夏期休業中、2~4週間) 【対象学年:2年生】	【2024年度】 ㈱シグマクシス / オイシックス・ラ・大地㈱ / ㈱日本レジストリサービス / 第一生命保険㈱ / 住友林業㈱ / 野村證券㈱ / TOPPANデジタル㈱ / ㈱コア / ソマール㈱	
グローバル インターンシップ(短期) (2単位)	春学期 (夏期休業中、2~6週間) 秋学期 (春期休業中、2~6週間) 【対象学年:2年生以上】	グローバルビジネス分野	【2024年度】※は海外実習 ※イオン㈱ / ㈱パソナグループ / ※イオンフィナンシャルサービス㈱ / 三菱電機㈱ / ※日本航空㈱ / ※NTTデータルーマニア / (公財)国際通貨研究所 / ㈱フジタ / ㈱オンワードホールディングス
		国際協力分野	【2024年度】 アフリカ開発銀行(AfDB) / (独)国際協力機構(JICA)
		グローバル・メディア分野	【2024年度】 ㈱日本経済新聞社 / ※(一社)共同通信社 / ※フジサンケイ・コミュニケーションズ・インターナショナル
		グローバル・ポリテイクス分野	【2024年度】 駐日ブルキナファソ大使館 / 駐日メキシコ大使館 / ルクセンブルク貿易投資事務所 / チェコセンター東京 / インスティトゥト・セルバンテス東京
UDトラックス インターンシップ -A Door to a World Leader in Sustainable Transport Solutions- (2単位)	春学期 (夏期休業中、3~4週間) 【対象学年:2年生以上】	UDトラックス㈱	
Sophia GED グローバル インターンシップ (6単位)	秋学期 (5~6ヶ月) 【対象学年:3年生以上】	Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd. (海外オンライン実習)	
グローバル インターンシップ(長期) (6単位)	春学期・秋学期 (3~5ヶ月) 【対象学年:3年生以上】	【2024年度】 ※智利三菱商事会社 / ※国際移住機関(IOM) / ※国際連合食糧農業機関(FAO) / (特非)ACE(エース) / (公社)日本ユネスコ協会連盟 / 駐日パナマ大使館 / ㈱コーエイリサーチ&コンサルティング	

## 2. 履修にあたっての注意事項

- ・ 実習先により、実施時期、対象学年、申込要件が異なります。詳細は、My Sophiaに掲載される「履修申込要項」を十分に確認してください。
- ・ インターンシップ科目は選抜によって履修者を決定し、通常の履修登録期間とは異なる時期に履修登録を行います。派遣が決定した時点で、該当学期及びその後の履修について、必ず学事センターに相談してください。
- ・ 実習先によっては、前年度、もしくは前の学期に募集・選抜を実施します。募集情報は、My Sophiaに掲載しますので、早めに確認するようにしてください。

- 成績評価は、“P”（合格）もしくは“X”（不合格）のいずれかとなります。“P”、“X”で表記される成績については、GPAの計算に含まれません。
- 「インターンシップ科目」は、履修登録の際の各学期および年間の「最高履修限度」の単位数には含まれません
- 「インターンシップ科目」履修学期をもって卒業見込の学生は、参加は可能ですが単位は付与されません。
- 2019年度以前に入学した国際教養学部 of 学生は参加するインターンシップ科目の単位数分の学費がかかります。学費の請求は履修登録の処理が終わってからになります。

## 海外短期研修

**i** 下記内容は変更、中止される可能性があります。また下記以外にも、追加で新たに実施が決定されることもあります。最新の情報についてはグローバル教育センター（2号館1階）に確認してください。

**i** 夏期・春期休業中の2～6週間、本学の交換留学協定校等で実施される短期プログラムに参加し、外国語で専門科目を学びます。認定・単位数はプログラムにより異なります。本研修参加のためには一定の語学能力が求められており、語学能力を活用しながら集中的に専門科目を学びたい学生に向けています。

### 海外短期研修

※下記内容は変更、中止される可能性があります。また下記以外にも、追加で新たに実施が決定されることもあります。最新の情報についてはグローバル教育センター（2号館1階）に確認してください。

#### ①本学の修得単位として認定するもの

大学名	講義での使用言語	実施国名	授業期間	付与単位数	対象学科	成績・単位の取り扱い
カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA)	英語	アメリカ	夏期休業中	参加者の履修科目による	全学部生可	*全学共通科目（選択科目）または学科科目として認定可。語学科目としての認定不可。 *事前に所属学科長と面談・相談のうえ参加し、学生が帰国後単位換算願を提出する必要あり。 *2025年度秋学期分単位として認定し、修了した者の成績は“N”（認定）となる。
アンジェ高等商業科学大学 (ESSCA)	英語	ハンガリー	春期休業中	参加者の履修科目による	全学部生可	*全学共通科目（選択科目）または学科科目として認定可。語学科目としての認定不可。 *事前に所属学科長と面談・相談のうえ参加し、学生が帰国後単位換算願を提出する必要あり。 *2026年度春学期分単位として認定し、修了した者の成績は“N”（認定）となる。 *本学の交換協定に基づき実施されるため、授業料は免除となる（航空運賃、宿泊費等は自己負担）。

※履修学期をもって卒業見込みの学生は、参加は可能ですが単位は付与されません。

#### ②本学の開講科目として取り扱うもの

大学名	講義での使用言語	実施国名	授業期間	付与単位数	対象学科	成績・単位の取り扱い	開講学部・学科
カリフォルニア大学デービス校	英語	アメリカ	夏期休業中	2	理工学部のみ	*理工共通科目Ⅰ群の選択必修科目として算入可。 *2025年度春学期分単位として付与され、修了した者の成績は“P”となる。	理工学部共通
ノートルダム大学	英語	アメリカ	夏期休業中	2	理工学部のみ	*理工共通科目Ⅰ群の選択必修科目として算入可。 *2025年度秋学期分単位として付与され、修了した者の成績は“P”となる。	理工学部共通
オックスフォード大学	英語	イギリス	夏期休業中	2	全学部生可	*全学共通科目（選択科目）または学科科目として算入可。語学科目としての算入不可。 *2025年度春学期に単位が付与され、合格した者の成績は“P”となる。	英語学科
ロンドン大学 SWS	英語	イギリス	夏期休業中	4	全学部生可	*全学共通科目（選択科目）または学科科目として算入可。語学科目としての算入不可。 *2025年度春学期に単位が付与され、合格した者の成績は“P”となる。	英語学科
ビクトリア大学	英語	カナダ	夏期休業中	4	全学部生可	*経営学科生は学科科目として算入可。 *経営学科生以外は全学共通科目（選択科目）もしくは学科科目として算入可。 *2025年度春学期に単位が付与され、合格した者の成績は“P”となる。	経営学科
トリア大学	ドイツ語	ドイツ	夏期休業中	2	ドイツ語学科のみ	*外国語学部ドイツ語学科選択科目「ドイツ語Ⅲ」として算入可。 *2025年度春学期に単位が付与され、合格した者の成績は“P”となる。 *問合せ先：ドイツ語学科事務室	ドイツ語学科
教皇立ハバリアナ大学	スペイン語	コロンビア	夏期休業中	2	全学部生可（ただし、定員を超えた場合はスペイン語学科生優先）	*スペイン語学科生は学科科目として算入可。ただし、専攻外国語としてのスペイン語科目として算入する場合は学科の指導に従うこと。 *スペイン語学科生以外は全学共通科目（選択科目）または学科科目として算入可。 *2025年度春学期に単位が付与され、合格した者の成績は“P”となる。	スペイン語学科
ノースカロライナ大学シャーロット校	英語	アメリカ	春期休業中	2	理工学部のみ	*理工共通科目Ⅰ群の選択必修科目として算入可。 *2025年度秋学期分単位として付与され、修了した者の成績は“P”となる。	理工学部共通
パリ政治学院	英語	フランス	春期休業中	4	全学部生可	*全学共通科目（選択科目）または学科科目として算入可。語学科目としての算入不可。 *2025年度秋学期に単位が付与され、合格した者の成績は“P”となる。	フランス語学科
西オーストラリア大学	英語	オーストラリア	春期休業中	4	全学部生可（ただし、定員を超えた場合は法学部生優先）	*法学部生は学科科目として算入可。 *法学部生以外は全学共通科目（選択科目）または学科科目として算入可。 *語学科目としては算入不可。 *2025年度秋学期に単位が付与され、合格した者の成績は“P”となる。	法学部
デウスト大学	スペイン語	スペイン	春期休業中	2	全学部生可（ただし、定員を超えた場合はスペイン語学科生優先）	*スペイン語学科生は学科科目として算入可。ただし、専攻外国語としてのスペイン語科目として算入する場合は学科の指導に従うこと。 *スペイン語学科生以外は全学共通科目（選択科目）または学科科目として算入可。 *2025年度秋学期に単位が付与され、合格した者の成績は“P”となる。	スペイン語学科

※詳細は各開講元のページを参照すること。

※履修学期をもって卒業見込みの学生は、参加は可能ですが単位は付与されません。

## 実践型プログラム

**i** 下記内容は変更、中止される可能性があります。最新の情報についてはグローバル教育センター（2号館1階）に確認してください。

**i** 主に夏期・春期休業中に、海外または国内においてフィールドワーク等を通じて実践的に学ぶプログラムです。各プログラムは、本学の開講科目として取り扱われ、事前指導に全て参加し、現地研修において所定の成果を修めた者には、全学共通科目（選択科目）として単位が付与されます。

## 実践型プログラム

※下記内容は変更、中止される可能性があります。最新の情報についてはグローバル教育センター（2号館1階）に確認してください。

プログラム名	授業期間	付与単位数	成績・単位の取り扱い	プログラム概要
AJCU-AP サービスマーケティング・プログラム	夏期休業中	2	*全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 *2025年度春学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	イエズス会の教育精神「For Others with Others」に基づいた人間的な成長を目指し、環境保全・地域開発をテーマに、アジア諸国の学生と共に社会貢献について考え、現地に実践するプログラム。（2025年度はアテネオ・デ・ナガ大学（フィリピン）にて実施予定）
グローバルリーダーシップ・プログラム	夏期休業中	2	*全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 *2025年度春学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	アジアのイエズス会大学から学生が集い、テーマに沿って学内での事前・事後指導、現地での討論等を通じてキリスト教的人間教育を理解し、グローバル社会で活躍するリーダーの育成を目指すプログラム。（2025年度は上智大学（日本）にて実施予定）
東南アジアに学ぶ（実践型プログラム）A	夏期休業中	2	*全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 *2025年度春学期分単位として認定。 *合格した者の成績は“P”（合格）となる。	歴史や文化の多様性に富み、ダイナミックに変貌している東南アジアのメコン地域を対象に実施する。メコン地域内の経済活動を促進してきた3つの経済回廊のうち、タイの東部からカンボジアとベトナムを繋ぐ「東部・南部経済回廊」を巡り、工業団地やインフラ視察、歴史・文化遺産訪問、国境地帯の観察、学生交流等を通じて体験的に学ぶプログラム。さらに、メコン地域の経済社会発展を支援する国際・政府機関の職員から講義を受け、プロジェクト形成や実施上の課題について学ぶ
インドの社会経済・人間開発に学ぶ：南インドのケララを実例に	夏期休業中	2	*全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 *2025年度春学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	南インドのケララ州の経済開発、労働問題、人間開発などの特徴や課題について、現地の状況に直接触れながら学ぶプログラム。
エストニア・スタディーズ：持続可能な社会構築に向けた教育の可能性	夏期休業中	2	*全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 *2025年度春学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	時期によってはバルト海周辺国も含めるが、基本的にエストニアの教育機関などの活動を見学し、現地の学生や関係者とディスカッションを通して、教育プログラムを開発する。特にエストニアにおける環境保全やICT活用などの革新的取り組みと工夫を学び、持続可能な社会構築への示唆を得ることを目的とする。
ジュネーブ国際機関集中研修プログラム	夏期休業中	2	*全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 *2025年度春学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	国際機関本部が集中しているスイス・ジュネーブに滞在し、関係機関の職員から直接受ける講義や質疑応答を通して各国国際機関の役割や活動を学ぶとともに、世界が直面する様々な課題について理解を深める。
多文化共生社会のリーダーシップ	夏期休業中	2	*全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 *2025年度春学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	米国におけるダイバーシティやジェンダーの様々な課題、そして多様性を踏まえたアメリカ（ワシントン州）ゴンザガ大学のリーダーシップ研究専門の学部・大学院であるSchool of Leadership Studies によって企画・開講されるプログラム。米国におけるダイバーシティやジェンダーの様々な課題、そして多様性を踏まえた包摂的リーダーシップについて、ゴンザガ大学教員による座学、日米の学生同士のアクティビティとディスカッションなどを実践する。プログラムの後半にはシアトルを訪問、現地の企業などを訪問する予定である。
フィールドワークの実践を通じて学ぶマレー世界	夏期休業中	2	*全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 *2025年度春学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	東南アジア島嶼地域の国々に滞在しながら、フィールドワークの手法を実践的に学ぶ。およそ2週間の現地滞在期間に、ホームステイをしながら提携校での現地語研修および文化、歴史に関する講義を受講し、その後、提示された課題にもとづいて、フィールドワークを実施する。
「世界がキャンパス」米国政治経済メディア現地体感実践プログラム	夏期休業中	2	*全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 *2025年度春学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	今講座は、事前講義と現地体感取材を通じて、『米国の歴史と今』を脳と心で理解し、帰国後プレゼンテーションで、現地での学びを『自らの未来』につなげていくことがテーマである。事前講義は、異文化コミュニケーション論、メディア論、米国経済及び政治を扱う。その上で、現地では、プレゼンテーション能力や取材力を高める実践に臨む。

プログラム名	授業 期間	付与 単位数	成績・単位の取り扱い	プログラム概要
アジアのなかの「日本」～ ソウル、仁川のなかの日本	夏期 休業中	2	* 全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 * 2025年度春学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	本科目では、アジア各国と日本との関係史を踏まえつつ、地域に目線をおき、脱植民地化（decolonization）が埋め込まれた現場を通して、過去の歴史と現在の理解を深めるきっかけを得るとともに、未来に向けた望ましい関係構築の視座を獲得することを目指す。
アフリカに学ぶA/B	夏期・ 春期 休業中	2	* 全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 * 【夏期休業中実施】2025年度春学期分単位として認定。 * 【春期休業中実施】2025年度秋学期分単位として認定。 * 合格した者は“P”（合格）となる。	アフリカ地域の歴史と現在（政治・経済・文化・日常生活）について、現地での講義と実習を中心に学ぶプログラム。現地大学の他、地域産業関連施設、世界文化遺産（歴史遺産）関連施設、国連関連施設、現地NPO、日本国大使館、JICA事務所等への訪問を予定。これらの訪問先において、現地学生をはじめ、研究者や地域の活動家、国際協力関連に携わる方々等との幅広い人的交流を通して、学生自身が学びを深めることを目的とする。
東南アジアに学ぶ (実践型プログラム) B	春期 休業中	2	* 全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 * 2025年度秋学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	東南アジアのメコン地域における経済社会発展の拠点であるタイで実施され、首都のバンコクと北部タイのチェンライとその郊外を訪問する。バンコクにおいてはダイナミックに変貌する経済社会や多様な文化を体感し、チェンライでは、イエズス会が設置した高等教育機関「ザビエル学習コミュニティ」に滞在し、少数山岳民族出身の学生との協働学習を行う。北部タイの経済社会課題に関する講義、少数山岳民族の村への訪問農作業体験、国境地帯の観察等を柱とするプログラム。
JWL・スタディーツアー	春期 休業中	2	* 全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 * 2025年度秋学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	Jesuit Worldwide Learning (JWL) のラーニングセンターがある地域*（ミャンマー・カンボジア・インド・スリランカなど）を訪問し、教育を受ける機会に限られている若者がいる世界の現状を目の当たりにするとともに、こうした格差は正に向けた様々なアプローチでの取り組みについて学ぶプログラム。また、「人間の安全保障と多文化共生」のテーマの元に、主に教育開発を中心に各国政府（日本・韓国）、国際機関・イエズス会等がそれぞれ現地に対してどのような認識を持って活動を行っているか調査しながら、国際関係や協力の現実をより深く理解することを目指す。
国連の役割と機能 (国連集中研修プログラム)	春期 休業中	2	* 全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 * 2025年度秋学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	国連の役割と機能に関する理解を深めるために、実際に国連の活動に従事している職員達からニューヨーク国連本部で講義を受ける。その講義を通じて、国連の理論と実践について考察する。
オーストラリア・サミット・プログラム	春期 休業中	2	* 全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 * 2025年度秋学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	オーストラリア国立大学の教職員・学生と協働し、一週間にわたりグローバル社会の現代的課題について議論する学生サミット型のプログラム。サミットでは、教員や実務家による講義、学生同士の議論、ロールプレイ、フィールドワークに参加し、それらを通じて、現代的な課題の問題の核心を探索し、課題の解決に向けた共同宣言を作り上げる。*2025年度はオーストラリア国立大学（オーストラリア）にて実施予定。
日本のなかの多様性	春期 休業中	2	* 全学共通科目（選択科目）としてのみ認定可。 * 2025年度秋学期分単位として認定し、合格した者の成績は“P”（合格）となる。	日本に所在する多様性を有するコミュニティ（在日コリアン、部落、ラテンアメリカなど）に注目し各年でテーマ設定する。 2025年度は、「日本の中のラテンアメリカ」をテーマに、日本に定住するブラジルやペルーから来日した南米日系人の方々のライフスタイルや教育、コミュニティの現状などを、体験を通して学ぶ。

※履修学期をもって卒業見込みの学生は、参加は可能ですが単位は付与されません。

## その他プログラム

---

### その他プログラム ▶

- 📄 SOPHIA AIMS (SAIMS)プログラム
- 📄 LATIN AMERICA PROGRAM (LAP)科目
- 📄 東アジアの諸問題とイエズス会教育（上智・西江共同開講科目）

## SOPHIA AIMS (SAIMS)プログラム

---

### <Sophia AIMS (SAIMS) プログラム科目>

「ヒューマン・エコロジー：社会と自然の多様性と連結性」を中心テーマとし、ASEANの学生と協働して既存の人文・社会および自然科学の枠組みを超えて「人間開発」に取り組むことを目指す学融合型プログラムです。自らASEAN諸国へ留学すること、ASEANから本学で受け入れている学生との交流を通じて、国際的な視野を持った人材育成を目指しています。SAIMSプログラム参加者には、以下の科目の履修を強く推奨します（2025年度は休講だが、SAIMSプログラムでの交換留学は可能）。

### <Sophia AIMS (SAIMS) プログラム科目> ※2025年度は休講

「ヒューマン・エコロジー：社会と自然の多様性と連結性」を中心テーマとし、ASEANの学生と協働して既存の人文・社会および自然科学の枠組みを超えて「人間開発」に取り組むことを目指す学融合型プログラムです。自らASEAN諸国へ留学すること、ASEANから本学で受け入れている学生との交流を通じて、国際的な視野を持った人材育成を目指しています。SAIMSプログラム参加者には、以下の科目の履修を強く推奨します（2025年度は休講だが、SAIMSプログラムでの交換留学は可能）。

※下記の科目はプログラムに参加しない学生でも受講は可能で、授業言語はすべて英語で行う。語学スコア等の提出は求めないがTOEFL79（iBT）相当の英語力が必要。

※担当教員等の詳細や単位の取り扱い、また、SAIMSプログラム自体の問い合わせに関してはグローバル教育センター（2号館1F）に問い合わせること。

科目名（2025年度休講/参考）	開講学期	開講元
CONSERVATION	春学期・秋学期	全学共通科目
ENVIRONMENTAL SCIENCE	春学期・秋学期	全学共通科目
SUSTAINABLE DEVELOPMENT	1Q・3Q	全学共通科目

## LATIN AMERICA PROGRAM (LAP)科目

---

### <Latin America Program (LAP) 科目>

LAPは文部科学省「大学の世界展開力強化事業（中南米）」採択プログラムとして運営したプログラムで、その枠組みで実施した主要な科目は持続可能な範囲で継続して開講しています。LAPで開講する以下の科目は、中南米をはじめとする海外からの留学生と共に学ぶことや国内外での多文化体験を通じて、多角的な視野で問題解決に向けて協働できる力を養うというLAPの目標にあった学修成果を目指します。LAPの参加者には、以下の科目の履修を強く推奨します。

### <Latin America Program (LAP) 科目>

LAPは文部科学省「大学の世界展開力強化事業（中南米）」採択プログラムとして運営したプログラムで、その枠組みで実施した主要な科目は持続可能な範囲で継続して開講しています。LAPで開講する以下の科目は、中南米をはじめとする海外からの留学生と共に学ぶことや国内外での多文化体験を通じて、多角的な視野で問題解決に向けて協働できる力を養うというLAPの目標にあった学修成果を目指します。LAPの参加者には、以下の科目の履修を強く推奨します。

※担当者等の詳細は（ ）内の各開講元のページを、単位の取り扱いについては所属学科のページを参照すること。またLAP自体の問い合わせに関してはグローバル教育センター（2号館1F）に問い合わせること。

科目名	開講学期
教皇立ハベリアナ大学 短期研修（外国語学部）	春（夏期休業中）
JAPANESE POP CULTURE（全学共通科目）	秋

（注）以下の3演習は、LAP参加学生に強く履修が推奨される。また、履修年次は3・4年次となっているが、LAP枠で3年次春に留学を開始する者は、2年次に受講することが可能である。

科目名	開講学期（開講元）
「日・西語圏比較文学」	秋（イスパニア語学科）
「演習（在日ブラジル人教育・社会事情研究）1」	春（ポルトガル語学科）
「演習（在日ブラジル人教育・社会事情研究）2」	秋（ポルトガル語学科）

## 東アジアの諸問題とイエズス会教育（上智・西江共同開講科目）

---

### <東アジアの諸問題とイエズス会教育（上智・西江共同開講科目）>

本科目（全学共通科目）は、韓国・西江大学の学生との交流を含む科目です。オンラインでの合同授業を実施するほか、週末（2泊3日）を利用して学期期間中に現地での学生交流（25年度は韓国への渡航を予定。渡航費は自己負担）を実施します。隣国理解を軸とし、「東アジアにおける国連のSDGsとイエズス会UAPs(Universal Apostolic Preference) 研究」の課題研究を目的とする科目となります。

履修にあたっては、説明会および事前選抜を行います。説明会・募集情報等詳細については、My Sophiaで発表します。

## SUMMER SESSION IN EAST ASIAN STUDIES

---

1961年に始まり50年以上の歴史を持つ上智大学のSummer Session in East Asian Studiesは、海外の大学生等を対象とした3週間の短期プログラムです。日本及びアジアの社会、歴史、経済、芸術、言語等に関わる講義を英語で開講することにより、受講者に日本及びアジアの視点から今日の世界を考察してもらうことを目的としています。これまでに世界中の国々から累積で10,000人以上が参加している歴史あるプログラムです。

本学の学生も履修が可能ですが、通常の学期中に毎日授業が行われるプログラムのため、他の科目の履修と重複しないよう十分注意が必要です。

---

### 1. 開講期間と科目

2025年度は下記期間で開講します。科目は変更となる可能性があります。

2025年7月1日から7月22日まで

## SUMMER SESSION IN EAST ASIAN STUDIES

1961年に始まり50年以上の歴史を持つ上智大学のSummer Session in East Asian Studiesは、海外の大学生等を対象とした3週間の短期プログラムです。日本及びアジアの社会、歴史、経済、芸術、言語等に関わる講義を英語で開講することにより、受講者に日本及びアジアの視点から今日の世界を考察してもらうことを目的としています。これまでに世界中の国々から累積で10,000人以上が参加している歴史あるプログラムです。

本学の学生も履修が可能ですが、通常の学期中に毎日授業が行われるプログラムのため、他の科目の履修と重複しないよう十分注意が必要です。

### 1. 開講期間と科目

2025年度は下記期間で開講します。科目は変更となる可能性があります。  
2025年7月1日から7月22日まで

#### East Asian Studies

科目コード	科目名	単位
HSZ200	MODERN HISTORY OF JAPAN	2
LIZ334	JAPANESE LITERATURE AND THE CITY	2
SOZ480	CONTEMPORARY JAPANESE SOCIETY	2
SOZ440	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	2
ENZ200	GLOBAL SUSTAINABILITY OUTLOOK AND PRACTICE IN JAPAN	2
EDZ200	EDUCATION IN JAPAN	2
LNZ200	JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE	2
ECZ200	THE JAPANESE ECONOMY IN A COMPARATIVE PERSPECTIVE	2
ASZ200	BUSINESS AND TECHNOLOGY IN EAST ASIA	2
ARZ201	JAPANESE CINEMA AND VISUAL CULTURE	2
ARZ301	JAPANESE PERFORMING ARTS, FROM PAST TO PRESENT	2

---

## 2. 履修時の注意点

- 履修登録期間は6月中旬～下旬です。通常の履修登録期間と異なります。詳細は4月中旬にMy Sophiaに掲載される「履修申込要項」を確認してください。
- 各科目には受入定員があります。希望者が多い場合には抽選となります。
- 講義は全て英語で行われるため、下記いずれかの外国語要件を満たす必要があります。  
TOEFL iBT: 79, TOEFL ITP: 550, TOEIC 730, IELTS: 6.0, TEAP 334, TEAP CBT 600以上または英検1級、準1級

## 履修プログラム

---

### 履修プログラム

-  死生学履修プログラムについて
-  インクルーシブ社会を目指すための教育推進プログラムについて
-  データサイエンスプログラム（スタンダードコース、アドバンストコース）

# 死生学履修プログラムについて

## 死生学履修プログラムとは

本プログラムは、本学の教育精神「他者のために、他者とともに」を具現化する一つの形として、本学において多数開講されている宗教や倫理に関わる科目、人間ケア関係の科目、および現代世界の諸相や地球的課題に対処する科目等を抽出・体系化し、現代社会における人々の生と死をめぐる課題と深く関連する「宗教の公共性」、「死生観・生命倫理」、「臨床スピリチュアルケア」という3つのテーマについて体系的な学びの機会を提供することを目的としている。また同時に、大学院実践宗教学研究科死生学専攻への入学を希望する本学の学部学生のための導入教育として位置づけられる。

全学共通科目から指定された科目を履修し、所定の単位を修得すれば、卒業時に履修証明を取得することができる。

なお、以下の説明は、2022年次生以降の学生が対象である。2021年次生以前の学生を対象とした履修プログラムの詳細については、実践宗教学研究科事務室に問い合わせること。

## 1. 履修要件

在学中に、全学共通科目の必修科目（8単位）および指定した選択必修科目・選択科目から（8単位）合計16単位修得する必要がある。

## 2. 受講者申込・選抜

### 📄 (1) 申込条件

2年次秋学期までの全科目のGPAが2.5以上であること

### 📄 (2) 申込時期

3年次春学期 ※4年次秋学期履修登録時まで随時受付可

### 📄 (3) 申込に必要な書類

① プログラム履修願（所定フォーム）

 2025学部履修プログラム履修願.docx | Wordファイル

② 志望理由を記したレポートの提出（A4サイズ1枚程度、書式自由）

③ 最新の成績（2年次秋学期までの成績・GPAが記載されたもの）

### 📄 (4) 選抜方法

① 書類審査（レポート含む）

② 面接（死生学専攻教員などによる面接）

### 📄 (5) 申込から選抜までの流れ

【申込期間】 2025年3月28日(金)～4月9日(水)

【書類提出先】 実践宗教学研究科専用メールアドレスに必要書類を添付して送信することメールアドレス shiseigaku-ofc@sophia.ac.jp

【面接期間】 2025年4月10日(木) (予定) 面接時間は、書類提出時に確定

### 3. プログラム受講・履修上の注意

- プログラム選抜結果は、春学期の抽選科目登録期間中となる。そのため、プログラムの受講を予定している学生は、プログラムに選抜されることを前提とした履修計画を行うこと。
- ただし、抽選科目に落選した場合や、プログラムに選抜されなかった場合における履修手続き等において特別な措置はないので、留意すること。
- 履修登録の際の条件や、科目を受講する際の留意点等については、開講元の学科ならびに担当教員の意向に従うこととし、本プログラム受講者ということでの特別な措置はないので、留意すること。
- プログラムの履修要件を満たした者には、卒業時に「死生学履修プログラム履修証」を発行する。

### 4. 問合せ

プログラムの詳細については、以下に問い合わせること

実践宗教学研究科事務室（10号館3階） 内線：4699

なお、プログラム履修願フォーム、プログラムの情報などについては、My Sophiaで通知するので、確認すること。

### 5. 「死生学プログラム」科目一覧

❗ 2025年度の開講状況や科目の履修条件等については、履修要覧の該当部分を参照すること

死生学履修プログラム科目一覧

履修度	授業科目名	単位	必要単位数
必修	キリスト教人間学「他者のために、他者とともに」	1	8
	身体のリハビリアート	1	
	思考と表現	2	
	データサイエンス概論	2	
	課題・視座・立場性を考える	2	
選択必修	キリスト教人間学科目（2年次）		8
	キリスト教人間学	2	
	高学年向け科目（3・4年次）		
	比較宗教史	2	
	宗教的共生論	2	
	死生学の展開	2	
	ケアの臨床哲学	2	
	東西宗教芸術の伝統と今日的な宗教的霊性	2	
	食と農と身体	2	
	ケアと依存——自助グループの世界観	2	
	宗教思想の伝統と現代	2	
	応用倫理の世界	2	
	生命倫理の諸問題と現代社会	2	
	生と死の現代文化論	2	
	生と死の哲学	2	
選択	諸宗教における自然と人間	2	8
	論理の世界	2	
	知としての身体を考える	2	
	身体知演習 ホディーワーク	2	
	ソマティック（身心）教育入門	2	
	日本の身体技法の理論と実践	2	
	ヨーガの理論と実践 ラージャヨーガからヨーガの日本的	2	
	身体知演習 ヨガ	2	
	生命倫理の世界	2	
	宗教学	2	
	心理学入門	2	
	心理学 I A	2	
	心理学 I B	2	
	社会学	2	
	インド・サービスラーニング・プログラム（2023年度まで）	2	
自己変容のための神経生理学 I（2023年度まで開講）	2		
自己変容のための神経生理学 II（2023年度まで開講）	2		

# 2025 年度 死生学履修プログラム 履修願

(この願書をレポートの表紙として提出すること)

提出日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

学生番号	
所属	学部 <span style="float: right;">学科</span>
学生氏名	
e-mail ※連絡用	

以下の書類を添付していますか？（□にチェックしてください。）

出願志望理由を記したレポートの提出（A4 サイズ 1 枚程度、書式自由）  
（所属学科・学生番号・氏名を記載すること）

最新の成績通知書  
（2 年次秋学期までの成績・GPA が記載されているもの）

提出先：実践宗教学研究科専用メールアドレスに必要書類を添付

[Shiseigaku-ofc@sophia.ac.jp](mailto:Shiseigaku-ofc@sophia.ac.jp)

提出締切：2025 年 4 月 9 日（水）

# インクルーシブ社会を目指すための教育推進プログラム～オリンピック・パラリンピック東京2020大会を契機として～について

## 1) インクルーシブ社会を目指すための教育推進プログラムとは

本学では、2016年度から、ソフィア・オリンピック・パラリンピック・プロジェクトを立ち上げ、活動を行ってきた。その取り組みの一つに、「オリンピック・パラリンピックを機として、共生社会を展望する教養科目群のマッピングと体系化」を掲げており、本プログラムを通して、次のとおり、体系的な学びの機会を提供する。

1. オリンピック・パラリンピックの東京開催を契機に開設された科目を個別に受講するだけでなく、指定する科目を履修するプログラムを設置することにより、系統的にインクルーシブな社会を理解するためのプログラムとする。
2. 必要な単位数を修得した学生に履修証明を発行する。これが動機付けとなり、学生が積極的に受講することを期待する。
3. オリンピック・パラリンピック東京2020大会をゴールとするのではなく、その先の共生社会の構築に向けた人材育成を到達目標とする。

## 2) 受講対象者

2016年度以降に1年次として入学した学部生を対象とする。



なお、本プログラムの新規受講者募集は、2022年度をもって終了しているので行わない。

## 3) プログラムの概要および修了要件

全学共通科目、学科科目から指定された科目を履修し、所定の単位を修得すれば、プログラムの履修証明を取得することができる。事前の申し込みは不要であり、選抜も行わない。

プログラムの概要および修了要件は、次のとおり。

1. プログラムに必要な科目・単位数は、5科目以上(10単位以上)とする。
2. これら科目の履修・単位修得に加えて、修了レポートを課す。
3. 科目・単位数の内訳は、①導入科目（選択必修）から1科目以上（2単位以上）、②応用科目（選択）から、4科目以上（8単位以上）、とする。
4. 導入科目および応用科目は、「インクルーシブ社会を目指すための教育推進プログラム～オリンピック・パラリンピック東京2020大会を契機として～」科目一覧を参照のこと。

## 4) 履修から修了までの手続き

1. 「インクルーシブ社会を目指すための教育推進プログラム～オリンピック・パラリンピック東京2020大会を契機として～」科目一覧を確認し、導入科目および応用科目の履修登録を行う。
2. プログラム修了者への履修証明発行手続きは、毎年1月に、My Sophia掲示板にて案内する。
3. 履修証明発行希望者は、1月下旬頃My Sophiaの案内に従い、卒業年度に所定の申請書に必要書類(成績証明書および修了レポート)を添付して基盤教育センター(2号館1階)に提出すること。

## 5) プログラム受講・履修上の注意

1. 抽選科目について、本プログラム履修希望者への優先登録などの特別な措置は行わない。
2. 履修登録の際の条件や、科目を受講する際の留意点等については、開講元の学科ならびに担当教員の意向に従うこととし、本プログラム履修希望者への特別な措置は行わない。
3. プログラム修了者への履修証明は申請に基づき発行することとし、プログラム修了要件を満たしていても申請を行わない場合は発行しない。

4. プログラム修了者への履修証明は「修了認定証」の発行をもって代える。

## インクルーシブ社会を目指すための教育推進プログラム

受講申し込み・選抜	なし
修了に必要な科目・単位等	5科目以上（10単位以上）の単位修得および修了レポート
単位数の内訳	導入科目(選択必修)から、1科目以上(2単位以上) 応用科目(選択)から、4科目以上(8単位以上)
受講の手続き	開始時は特になし プログラム修了者で履修証明発行を希望する者は、卒業年度に履修証明発行申請を行うこと。

### 6) 問い合わせ

本プログラムの詳細については、以下に問い合わせること。

基盤教育センター(2号館1階)(内線4600)

### 7) 「インクルーシブ社会を目指すための教育推進プログラム ~オリンピック・パラリンピック東京2020大会を契機として~」 科目一覧

 科目の詳細内容については、各開講元のページ・シラバスを参照すること。

7)「インクルーシブ社会を目指すための教育推進プログラム ～オリンピック・パラリンピック東京2020大会を契機として～」科目一覧

科目名	単位	導入科目	応用科目		開講所属
			知る・理解する	生きる	
オリンピック・パラリンピック概論	2	○			全学共通科目、2023年度まで開講
共生する社会と身体・スポーツ	2	○			全学共通科目
共生社会創生論	2	○			全学共通科目
共生社会創生論－障がい者スポーツ・芸術を通じた共生社会の実現に向けて－	2	○			全学共通科目 2018年度まで開講
ケアの臨床哲学	2		○		全学共通科目、2024年度休講
現代文化としてのスポーツ	2			○	全学共通科目 2023年度まで「現代文化としてのスポーツⅠ」
知としての身体を考える	2			○	全学共通科目
人間と運動・スポーツ	2			○	全学共通科目、2022年度まで開講
パラアスリートと考える障がい者スポーツと共生社会	2			○	全学共通科目
赤十字と国際活動	2			○	全学共通科目 2023年度まで開講
ジェンダーと法	2		○		全学共通科目
言語と人間Ⅰ	2		○		全学共通科目
言語と人間Ⅱ	2		○		全学共通科目
立場の心理学1：マジョリティの特権を考える	2			○	全学共通科目
立場の心理学2：特権の自覚と行動をつなぐ	2			○	全学共通科目
文化復興と民族：北米先住民の現在	2		○		全学共通科目
レジャー・スポーツ・レクリエーション論	2			○	全学共通科目 2018年度まで開講
人間・環境開発論	2		○		全学共通科目 2018年度まで開講
パラリンピアンと考える障がい者スポーツと共生社会	2			○	全学共通科目 2019年度まで開講
マイノリティとグローバル社会	2		○		全学共通科目 2020年度まで開講
スピリチュアリティとケア実践	2			○	神学部 2021年度まで開講
国際サービスラーニング論	2			○	全学共通科目 2021年度まで開講
ポランティア論	2			○	神学部
愛とケアの思想史	2		○		神学部 2021年度まで開講
世界のスポーツ・身体文化論	2		○		文学部、2025年度休講
身体・スポーツ・社会Ⅰ	2		○		文学部
身体・スポーツ・社会Ⅱ	2		○		文学部
東洋身体文化論	2		○		文学部、2025年度休講
政治学	2		○		史学科
国際教育学Ⅰ	2		○		教育学科
国際教育開発学Ⅰ	2		○		教育学科
国際教育学Ⅱ	2		○		教育学科
国際教育開発学Ⅱ	2		○		教育学科
生涯学習とスポーツ	2			○	教育学科 2019年度まで開講
リハビリテーション心理学（障害者・障害児心理学）	2		○		心理学科
心理学的支援法	2			○	心理学科
コミュニティー心理学	2		○		心理学科 2022年度まで開講
エイジングと世代の社会学	2		○		社会学科
ライフスタイルの社会学	2			○	社会学科
ライフコースの社会学	2			○	社会学科
ジェンダーの社会学	2		○		社会学科
開発の社会学	2		○		社会学科
雇用と労働の社会学	2		○		社会学科
SOCIOLOGY OF GLOBALIZATION	2		○		社会学科

科目名	単位	導入科目	応用科目		開講所属
			知る・理解する	生きる	
グローバル化の社会学	2		○		社会学 2018年度まで開講
社会福祉原論	2		○		社会福祉学科
当事者福祉論	2			○	社会福祉学科
介護概論	2			○	社会福祉学科
介護技術	2			○	社会福祉学科
生活困窮者支援論	2		○		社会福祉学科
障害の理解と支援	2		○		社会福祉学科 2018年度まで開講
社会福祉の歴史と社会福祉思想	2		○		社会福祉学科 2019年度まで開講
社会福祉倫理学	2		○		社会福祉学科 2019年度まで開講
ケアマネジメント論	2			○	社会福祉学科 2020年度まで開講
ソーシャルワーク入門	2			○	社会福祉学科 2020年度まで開講
公的扶助論	2		○		社会福祉学科 2020年度まで開講
生と死のケアリング・コロキウム	2		○		看護学科
社会保険法Ⅰ	2		○		法学部
社会保険法Ⅱ	2		○		法学部
社会保険法	4		○		法学部 2018年度まで開講
特別講義（貧困とコミュニティの経済学Ⅰ）	2		○		経済学科
特別講義（貧困とコミュニティの経済学Ⅱ）	2		○		経済学科
人的資源管理論Ⅱ	2		○		経営学科
難民とアメリカA	2		○		外国語学部
難民とアメリカB	2		○		外国語学部
市民が関わる国際協力	2			○	外国語学部
ポップカルチャー論	2		○		外国語学部
言語接触と日本語	2		○		外国語学部、2023年度まで開講
日本・ラテンアメリカ比較教育論	2		○		外国語学部
難民とアメリカ	4		○		外国語学部 2021年度まで開講
グローバル社会学	2		○		総合グローバル学科
イスラームとジェンダー	2		○		総合グローバル学科 2019年度まで開講
東南アジア社会とジェンダー	2		○		総合グローバル学科 2019年度まで開講
CONTROVERSIES IN GLOBALIZATION	4		○		国際教養学部
THE ENCOUNTER OF RELIGIONS IN THE MODERN WORLD	4		○		国際教養学部
RELIGION、 CONFLICT AND VIOLENCE	4		○		国際教養学部
福祉・人間工学	2		○		機能創造理工学科
福祉情報学	2		○		情報理工学科、2025年度休講
ヒューマンコミュニケーション	2		○		情報理工学科
身体知講義（世界のスポーツ・身体文化論）	2		○		全学共通科目、2025年度休講
身体知講義（身体・スポーツ・社会Ⅰ）	2		○		全学共通科目
身体知講義（身体・スポーツ・社会Ⅱ）	2		○		全学共通科目
身体知講義（東洋身体文化論）	2		○		全学共通科目、2025年度休講

※科目の詳細内容については、各開講元のページ・シラバスを参照すること。

# データサイエンスプログラム（スタンダードコース、アドバンストコース）

## 1) データサイエンスプログラムとは

本プログラムは、現代の高度な情報化社会やSociety5.0に対応するために、全学共通科目のデータサイエンス科目群を中心に体系化することにより、文系・理系を問わず数理・データサイエンス・人工知能（AI）に関する知識や技術、倫理等について学修する機会の提供を目的としている。学生は本プログラムの修了によって修了認定証を受領し、本学における数理・データサイエンス・AI教育の基礎及び応用的内容を学修したことを証明することができる。本プログラムでは基礎及び応用的内容の段階に応じて、スタンダードコースとアドバンストコースの2つのコースを置く。

## 2) 受講対象者

すべての学部生を対象とする。

## 3) 到達目標

### 〔スタンダードコース〕

現実社会で広く活用される数理・データサイエンス・AIの基本的な知識・技術及び倫理等を学び、さらにそれを各専門分野に繋げるための応用基礎力を養う。

### 〔アドバンストコース〕

数理・データサイエンス・AIと各専門分野を組み合わせることにより高度な知識・技術等を学び、その専門分野を牽引するエキスパート人材となるための橋渡しとなる応用力を養う。

## 4) 修了要件

### 〔スタンダードコース〕

以下の2点を満たすこと。

1. 全学共通科目（必修）「データサイエンス概論」（注1）または「OVERVIEW OF DATA SCIENCE」（注2）の単位を修得すること。
2. 指定科目のうち全学共通科目（選択）3科目の単位をすべて修得すること（注3）（注4）。



（注1）「データサイエンス概論」は2022年次生以降向けの必修科目である。なお、2023年度以前に開講されていた全学共通科目（選択）「データサイエンス概論：日常生活とデータサイエンス」、または2020年度開講した以下の科目の単位を両方修得している場合は「データサイエンス概論」の単位を修得していると見なす。「日常生活とデータサイエンス1」および「日常生活とデータサイエンス2」「データサイエンス概論1：人間、社会、科学技術とデータ」および「データサイエンス概論2：データサイエンスの方法」



（注2）「OVERVIEW OF DATA SCIENCE」はSPSF、理工英語コース、国際教養学部向けの必修科目として開講されている。



（注3）選択科目の開講言語は問わないが、同一内容の科目の単位を重複して修得することはできない。以下の組み合わせは同一内容となるので注意すること。「データサイエンスとデータエンジニアリングの基礎」と「FUNDAMENTALS OF DATA SCIENCE AND ENGINEERING」・「人工知能基礎」と「FUNDAMENTALS OF ARTIFICIAL INTELLIGENCE」・「データサイエンスと人工知能の実践」と「PROGRAMMING IN DATA SCIENCE AND ARTIFICIAL INTELLIGENCE」



（注4）理工学部情報理工学科の学生は指定の学科科目4科目の単位を修得すること。

## 〔アドバンストコース〕

以下の2点を満たすこと。

1. スタンダードコースの修了要件を満たしていること
2. 指定科目一覧から8単位以上修得すること

### 5) 修了証明書の発行手続き

スタンダードコース及びアドバンストコースの各修了証明書の発行希望者は基盤教育センターに申し出ること。修了証明書はオープンバッジ形式で発行される。紙の証明書を希望する場合はその旨申し出ること。

### 6) プログラム受講・履修上の注意

1. 本プログラムは、所定の単位を修得すれば、プログラムの修了証明書を取得することができる。プログラム履修前の事前申し込みは不要であり、選抜も行わない。
2. 抽選科目について、本プログラム履修希望者への優先登録などの特別な措置は行わない。
3. 履修登録の際の条件や、科目を受講する際の留意点等については、開講元の学科ならびに担当教員の意向に従うこととし、本プログラム履修希望者への特別な措置は行わない。
4. プログラムの修了証明書は申請に基づき発行することとし、プログラム修了要件を満たしていても申請を行わない場合は発行しない。
5. プログラム修了者への履修証明は「修了証明書」の発行をもって代える。

### 7) 問い合わせ

本プログラムの詳細については、以下に問い合わせること。

基盤教育センター（2号館1階）sophia-geo\_co@sophia.ac.jp

### 8) 指定科目一覧

8) 指定科目一覧

〔スタンダードコース〕

※理工学部情報理工学科生以外の場合（日本語開講科目）

科目名	単位	開講所属	備考
データサイエンス概論	2	全学共通科目	※必修科目
データサイエンスとデータエンジニアリングの基礎	2	全学共通科目	
人工知能基礎	2	全学共通科目	
データサイエンスと人工知能の実践	2	全学共通科目	

※理工学部情報理工学科生以外の場合（英語開講科目）

科目名	単位	開講所属	備考
OVERVIEW OF DATA SCIENCE	2	全学共通科目/国際教養学部	※必修科目
FUNDAMENTALS OF DATA SCIENCE AND ENGINEERING	2	全学共通科目	
FUNDAMENTALS OF ARTIFICIAL INTELLIGENCE	2	全学共通科目	
PROGRAMMING IN DATA SCIENCE AND ARTIFICIAL INTELLIGENCE	2	全学共通科目	

※理工学部情報理工学科生の場合

科目名	単位	開講所属	備考
データサイエンス概論	2	全学共通科目	
基礎情報学	2	理工学部情報理工学科	
ビジネスデータ分析	2	理工学部情報理工学科	
人工知能入門	2	理工学部情報理工学科	※注1
メディア情報論	2	理工学部情報理工学科	

注1「人工知能入門」は「FUNDAMENTALS OF ARTIFICIAL INTELLIGENCE（全学共通科目、英語開講科目）」でも代替可とする。

8) 指定科目一覧

〔アドバンストコース〕

※すべての学生

科目名	単位	開講所属	備考
情報化社会と情報倫理	2	全学共通科目	
マルチメディア情報社会論	2	全学共通科目	
情報と職業	2	全学共通科目	
社会統計学 -国際的な統計データの解釈-	2	全学共通科目	
AI革命後の社会と仕事原理	2	全学共通科目	
情報フルエンシー (Cプログラミング)	2	全学共通科目	
情報フルエンシー (ウェブ開発のためのJavaScriptプログラミング)	2	全学共通科目	
情報フルエンシー (予測分析)	2	全学共通科目	
情報フルエンシー (Pythonプログラミング)	2	全学共通科目	
情報フルエンシー (システム情報処理)	2	全学共通科目	
情報フルエンシー (プログラミング技法)	2	全学共通科目	
情報フルエンシー (システムコンサルティング)	2	全学共通科目	2021年度まで開講
情報フルエンシー (情報科学と人間)	2	全学共通科目	
情報フルエンシー (HTMLとCSSを用いたWebページ作成技法)	2	全学共通科目	
情報フルエンシー (Pythonによるアルゴリズムと問題解決の技法)	2	全学共通科目	
アナリティクス入門：社会で活用されるアナリティクス	2	全学共通科目	
ビジュアルデータアナリティクス入門	2	全学共通科目	
データ活用と経営戦略 (データサイエンス基礎)	2	全学共通科目	
アナリティクスによる事業戦略 (データサイエンス応用)	2	全学共通科目	
プロセスマイニング実践講座	2	全学共通科目	
データサイエンスと地域コミュニティ	2	全学共通科目	
現代社会における情報	2	全学共通科目	
データ加工入門	1	全学共通科目	
ビジネスデータ分析理論 (データサイエンス基礎)	2	全学共通科目	
データサイエンス実践：実践型データ分析演習	2	全学共通科目	
AIのセオリーから (ビジネス) プロダクションへ	2	全学共通科目	2024年度まで開講
マーケティング戦略とデータサイエンス	2	全学共通科目	
AIと共に生きる	2	全学共通科目	
応用統計学	2	全学共通科目	
演習 (メディア・リテラシー)	2	全学共通科目	
データとプライバシー	2	全学共通科目	
データ活用と人間行動	2	全学共通科目	2023年度まで開講
データエンジニアリング	2	全学共通科目	2022年度まで開講
基礎プログラミング	1	理工学部情報理工学科	
情報学演習Ⅰ	1	理工学部情報理工学科	
情報学演習Ⅱ	1	理工学部情報理工学科	
情報学演習Ⅲ	1	理工学部情報理工学科	

※すべての指定科目が2025年度に開講されることを保証するものではありません。

※2025年度開講予定科目については要覧の全学共通科目開講科目担当表を参照のうえ、各科目のシラバスを熟読すること。

## 語学科目

### 語学科目

-  語学科目について
-  英語の到達目標について
-  語学科目履修上の注意
-  英語
-  初習言語（全般）
-  ドイツ語・フランス語・イスパニア語・イタリア語・中国語・ロシア語
-  ロシア語・（ブラジル）ポルトガル語
-  ラテン語（哲学科開講）
-  アジア・アフリカ諸語
-  日本語
-  日本語（翻訳科目）
-  海外短期語学講座
-  交換留学海外英語集中講座
-  開講科目担当表
-  開講科目担当表02
-  開講科目担当表03